

アーツ前橋開館5周年記念

# つまずく石の縁

- 地域に生まれるアートの現場 -

2018年10月12日（金）— 11月4日（日）※金土日のみ開場



上【図1】イルワン・アーメット&ティタ・サリナ オープンスタジオ風景 撮影:木暮伸也

下【図2】片山真理 《25 days in tatsumachi studio / アツミレコード #001》2015年、半光沢ラムダプリント、フレーム  
H 221 mm × W 295 mm、©Mari Katayama Courtesy of rin art association

## 企画概要

“道でつまずいた石さえもその人といくらかの因縁があるということ。どんなつまらないことや関係でも大事にしなければならないというたとえ。”（ことわざ：躓く石も縁の端 『故事・俗信 ことわざ大辞典』より）

偶然の何気ない出会いが、現在の自分を作り上げる不思議な縁の一つとなるように、滞在制作におけるアーティストの作品も、想像しなかった発見や出会い、偶然によって変化していきます。ときに期待とは異なる方向に進んでしまうことや不測の出来事も、それぞれの手法で解決し、変更を加えていきます。その身のこなしは、言葉や文化を越えて、他者と共に生きる知恵として、また見慣れた景色にも新たな視点を与えてくれます。「地域」をひとつの結び目として、それぞれのアーティストがつなげた縁が、緩やかに、きっとあなたにもつながっています。

アーツ前橋の滞在制作事業においては、作品の完成を目標とせず、滞在期間中はリサーチに多くの時間を費やすことから、作品は滞在制作終了後に完成され、国内外の様々な地域の展覧会などで展示されています。前橋で生まれ、様々な国や地域で発表されてきた作品を見るまたとない機会となります。本事業は、アーツ前橋の開館5周年にあわせ、滞在制作においてアーティストの活動拠点となる「豎町スタジオ」が立地する中心市街地の商店街協同組合と協力して開催します。過去に滞在制作を行ったアーティストの中から10組が、生活の中心となった商店街の店舗などを使って展示を行うことで、地域に根差したアートの在り方を提示するとともに、商店街の活性化につながる機会創出を目指します。

## 滞在制作事業（アーティスト・イン・レジデンス）について

滞在制作事業／アーティスト・イン・レジデンスとは、アーティストが一定期間、自身の活動拠点を離れ、異なる地域に身を置きながら制作活動を行う制度、またはその活動を支援する制度です。異なる文化や歴史の中で、言語の壁を越えて市民と交流をし、制作を行うことは、アーティストに多くの刺激を与え、多くのインスピレーションや創作の種を生み出すきっかけとなっています。アーツ前橋では開館以前の2011年より滞在制作事業を継続しており、これまで滞在制作を行ったアーティストは延べ18組に達しています(2018年7月時点)。平成30年度は、2組の海外からのアーティストと、群馬県にゆかりのあるアーティストを対象とした公募による2組の計4組を招聘しています。約1～2か月の間滞在し、滞在の後半には作品や成果を発表していません。

## 開催概要

- 【展覧会名】 アーツ前橋開館 5 周年記念 つまづく石の縁 -地域に生まれるアートの現場-
- 【英 題】 Unexpected Encounter - Artist in Residence Maebashi 2015-2018
- 【会 期】 2018 年 10 月 12 日(金)、13 日(土)、14 日(日)、19 日(金)、20 日(土)、21 日(日)、26 日(金)、  
27 日(土)、28 日(日)、11 月 2 日(金)、3 日(土)、4 日(日) 12 日間
- 【開場時間】 11:00~18:00
- 【会 場】 前橋中心市街地周辺
- 【入 場 料】 600 円 ガイドブック付き ※会期中何度でも使えるパスポート制。
- 【主 催】 アートによる文化交流推進実行委員会、前橋中心商店街協同組合
- 【共 催】 アーツ前橋
- 【助 成】 一般財団法人 自治総合センター
- 【後 援】 イスラエル大使館
- 【参加作家】 ヘヴン・ベク Heaven BAEK(韓国)  
片山真理 KATAYAMA Mari(日本)  
木村崇人 KIMURA Takahito(日本)  
ダラ・リーヴス Daragh REEVES(イギリス/ドイツ)  
萩原留美子 HAGIWARA Rumiko(日本/オランダ)  
梅沢英樹 UMEZAWA Hideki(日本)  
アンナ・ヴィット Anna WITT(オーストリア/ドイツ)  
ケレン・ベンベニスティ Keren BENBENISTY(イスラエル/アメリカ)  
衣真一郎 KOROMO Shinichiro(日本)  
イルワン・アーメット&ティタ・サリナ Irwan AHMETT & Tita SALINA(インドネシア)  
(羽山まり子 HAYAMA Mariko ※2018 年 9 月~10 月 滞在アーティスト 日本)

## 出版物

本展覧会にあわせ、ガイドブックを出版します。

発行:アートによる文化交流推進実行委員会

定価:600 円 (展覧会入場パスポートとしてお使いいただけます)

仕様:B6、110 ページ程度

デザイン:寺澤由樹

発行日:2018 年 9 月上旬(予定)

販売:アーツ前橋ミュージアムショップ ミーナ、中央通り商店街一部店舗など(予定)

## 関連イベント

### ◎ アーティストトーク

日 時：10月12日（金） 16:00～18:00

内 容：参加アーティストによるトークイベント行います。

出 演：ヘヴン・ベク、イルワン・アーメット&ティタ・サリナ、萩原留美子、  
ケレン・ベンベニスティ（予定）

参加費：無料／【要申込】

定 員：40名

会 場：アーツ前橋 スタジオ

### ◎ 梅沢英樹 ライブ

日 時：11月4日（日） 13:00～14:00

内 容：電子音楽家として活動も行う梅沢英樹によるライブを行います。

出 演：梅沢英樹（参加アーティスト）、上村洋一（アーティスト）

参加費：無料／【申込不要】

会 場：オリオン通り

### ◎ 「つまづく石の縁」ガイドツアー

日 時：10月20日（土）、10月28日（日） 13:00～14:00

内 容：街をよく知るゲストとともに街歩きをしながら、アーツ前橋学芸員が作品を解説します。

講 師：20日：臼井 敬太郎（前橋工科大学講師）、28日：橋本薫（建築家）

参加費：無料 要パスポート／【申込不要】

集 合：アーツ前橋 総合案内前

※【要申込】はお電話にてお申込下さい。 アーツ前橋 TEL:027-230-1144

## 同時期開催

【展覧会名】 アーツ前橋開館5周年記念企画展「岡本太郎と『今日の芸術』 絵はすべての人の創るもの」

【会 期】 2018年10月5日（金）～2019年1月14日（月）

【会 場】 アーツ前橋（前橋市千代田町5-1-16）

【休 館 日】 水曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

【観 覧 料】 一般 600円／学生・65歳以上・団体 400円／高校生以下無料

※10月はアーツ前橋の開館5周年を記念して入場無料。ほか各種割引あり

【事 業 名】 前橋まちなかアーツ助成

【会 期】 10月12日（金）～11月4日（日）

【会 場】 中心市街地

【内 容】 まちなかで芸術文化活動を続ける団体／個人を支援する助成事業。展示やパフォーマンスなど様々な企画が、前橋中心市街地を核に開催されます。

## 本展の見どころ

### 1. くうねるところにつくるところ

滞在制作では、アーティストが前橋のまちに滞在することで作品を着想し、地域の方々の協力を得て作品を制作します。前橋が舞台となる作品や、地域で暮らしたことで生まれた作品などを中心に紹介します。

### 2. 街なかの商店街が舞台！

本事業はアーツ前橋開館5周年を記念し、アーツ前橋が立地する中心市街地の「前橋中心商店街協同組合」と協力して開催します。地域のコミュニティスペースや空店舗、商店街を使って多様な表現が展開されます。買い物や街歩きを楽しみながら作品を鑑賞いただけます。

### 3. 8か国から10組のアーティストが参加

これまで滞在制作を行ったアーティストの中から、韓国、イスラエル、インドネシア、オランダなど様々な国のアーティストと作品が再び、前橋に集まります。

### 4. もう一つのストーリー

入場はパスポート制となり、会期中何度でも見ることができます。また、パスポートを兼ねたガイドブックを制作します。アーティストが暮らした日々や、制作の周りに生まれたつながりを中心に、滞在制作と街のもう一つの側面を紹介します。



図 3



図 4



図 5



図 6

【図 3】ヘヴン・ベク 制作風景 撮影：木暮伸也

【図 4】木村崇人 制作風景 撮影：木暮伸也

【図 5】ケレン・ベンベニスティ インタビュー風景

【図 6】アンナ・ヴィット 映像撮影風景

## プレス向けツアー

日時:10月12日(金)

時間:13:00~14:30 ※参加作家の立会いの作品解説会は、13:30~14:30です。

立会い作家:イルワン・アーメット&ティタ・サリナ、梅沢英樹、片山真理、木村崇人、ケレン・ベンベニスティ、衣真一郎、萩原留美子、ヘヴン・ベク(予定)

## 参加アーティスト(滞在順に掲載)

### ヘヴン・ベク Heaven BAEK

滞在期間:2014年11月1日(土)~12月26日(金)

1984年、韓国・釜山生まれ。ロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)でメディア・アートを学んだ後、グラスゴー芸術学校(イギリス)で美術学修士号を取得。主な個展に、「Wolf and Wolf」(2017年、アラリオギャラリー、ソウル/韓国)、「Our Lady vengeance」(2013年、インサ・アート・スペース、ソウル/韓国)など。近年のグループ展に、「Busan returns」(2018年、f1963、釜山/韓国)、「Undefined Boundaries」(2017年、在ベトナム韓国文化院、ハノイ/ベトナム)、「Sound of community」(2015年、Arko Museum、ソウル/韓国)、「Caesura」(2014年、Reid Gallery、グラスゴー/イギリス)、「Global cities and Citystories」(2012年、Casal Solleric、マヨルカ島/スペイン)など多数。2018年、光州ビエンナーレ(光州広域市/韓国)に参加予定。

出品予定作品:《池をひっかくものたち》2015年、映像、6分



### 片山真理 KATAYAMA Mari

滞在期間:2014年9月30日(火)~10月28日(火)、2015年2月19日(木)~3月16日(月)

1987年、埼玉県生まれ、群馬県育ち。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。先天性の四肢疾患により9歳の時に両足を切断。以後、自身で装飾を施した義足を使用し、セルフポートレートを制作。作品制作の他に『ハイヒールプロジェクト』として歌手、モデル、講演、執筆など多岐に渡り活動している。主な展示に、「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」(2017年、東京都写真美術館、恵比寿/東京)、「帰途」(2017年、群馬県立近代美術館、高崎/群馬)、「六本木クロッシング 2016 展:僕の身体、あなたの声」(2016年、森美術館、六本木/東京)、「あいちトリエンナーレ 2013」(2013年、名古屋/愛知)など。主な受賞に、2012年「アートアワードトーキョー丸ノ内グランプリ」。第43回「木村伊兵衛写真賞」にノミネート。



©Mari Katayama Courtesy of rin art association

◎出品予定作品:〈25 days in tatsumachi studio〉シリーズ 2015年、写真

### 木村崇人 KIMURA Takahito

滞在期間:2015年8月1日(土)~9月6日(日)、2016年1月10日(日)~2月17日(水)

1971年、愛知県出身。東京藝術大学大学院博士課程修了。「地球と遊ぶ」をコンセプトに「地球の持つ見えない力を知覚する装置」を制作し、作品を体験することで、ものごとを情報としてではなく実感できる体験型の作品を主に制作している。主な個展に、「アサヒアートコラボレーション『森を遊ぶ・木村崇人展』(2008年、すみだリバーサイドギャラリー、墨田/東京)、「木村崇人『森\_living』(2009年、世田谷文化生活情報センター、世田谷/東京)、「テーブルの上/下から」(2015年、アートフロントギャラリー、渋谷/東京)、「アートで地球と遊ぶ 木村崇人展」(2016年、九州文芸館、筑後/福岡)など。主なグループ展に、「越後妻有アートトリエンナーレ」(2003年、2006年、2012年、十日町など/新潟)、「瀬戸内国際芸術祭」(2010年、2012年、女木島など/香川県など)、「あいちトリエンナーレ 2010」(2010年、名古屋/愛知)、「種子島宇宙芸術祭」(2017年、種子島/鹿児島)、「六本木アートナイト」(2017年、六本木/東京)など多数。



出品予定作品:《赤城山をつなぐ》2015年~継続中、インスタレーション  
《ガリバー診療所》2018年、インスタレーション

### ダラ・リーヴス Daragh REEVES

滞在期間:2015年11月13日(金)~12月27日(日)

1974年、イギリス・リーズ生まれ。2000年、ニューヨークのスクール・オブ・ヴィジュアルアートを卒業後、2002年にアムステルダム「de Ateliers」にて滞在制作を行う。映画を主な参照として多様なメディアを用いて作品を制作。主な個展に、「The Fountains of New York」(2007年、oprto、リスボン/ポルトガル)、「Translucent Screen」(2012年、Capacete、リオデジャネイロ/ブラジル)、「The Guilty Machine」(2014年、Neumeister Bar-Am、ベルリン/ドイツ)、「Opening Hours」(2017年、Andriess Eyck Galerie、アムステルダム/オランダ)など。主なグループ展に、「Bourgeois Leftovers」(2013年、de Appel、アムステルダム/オランダ)、「Thirsty Garten」(2016年、The Composing Rooms、ベルリン/ドイツ)、「Life in the Bubble」(2017年、Grundemark Nilsson、ベルリン/ドイツ)など。

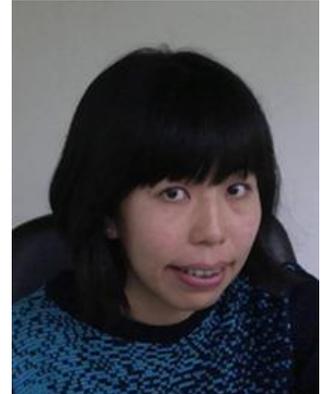


出品予定作品:《Highball》2015年、映像インスタレーション、  
《Open and Shut》2017年、ポスター2枚 各 88 x 63 cm

**萩原留美子 HAGIWARA Rumiko**

滞在期間:2015年11月13日(金)~12月27日(日)

群馬県安中市出身。2004年東京造形大学卒業後に交換留学制度を利用して渡蘭、2008~2009年アムステルダムのライクスアカデミーに参加。現在もアムステルダムを拠点に活動している。萩原の作品制作は、日常生活で見かけられるありふれた物事や不合理的をあえて強調することや、偶然的に遭遇した物事を素材にすることによって構成されている。最近は、日本人としてヨーロッパに身を置く上での経験から生まれる疑問や文化の差異を題材にしている。これらの日常への介入行為は、多様なフォーマット、写真、ビデオ、サイトスペシフィックインスタレーション、パフォーマンスなどに記録されることによって作品化され、微妙な、そして時に遊び心のある詩的表現へ変換される。近年の活動に、ラ・カサエンセンディーダ(マドリッド/スペイン)、エアー・アントワープ(アントワープ/ベルギー)、ホール 14(ライプツヒ/ドイツ)、CC ストロムビーク(グリムベルゲン/ベルギー)、インターナショナル・ドキュメンタリー・フィルムフェスティバル・アムステルダム(アムステルダム/オランダ)、ジャーニン・ホフランド・コンテンポラリーアート(アムステルダム/オランダ)、エアー・ベルリン・アレキサンダープラッツ(ベルリン/ドイツ)、など数多くの国際展やアーティストレジデンスプログラムに参加している。



出品予定作品:《ゴースト・イン・サイレンス》2017-2018年、ビデオ/パフォーマンス、20分、  
5サラウンドサウンド、英語日本語字幕

**梅沢英樹 UMEZAWA Hideki**

滞在期間:2016年12月3日(土)~27日(火)

1986年群馬県桐生市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程在籍。国内外で電子音楽作品のリリースやインスタレーションの制作、サウンド・パフォーマンスを行う。ルイジ・ルッソ国際音楽コンクールや Ina-GRM 主催の Banc d'essai などに作品が選出されている。主な受賞に、リュック・フェラーリ国際コンクール-プレスク・リヤン賞 2015、主な展示に「深みへ-日本の美意識を求めて-」(2018年、ロスチャイルド館、パリ/フランス)、「Seeing Through the Garden 東西の自然観から物語へ」(2017年、東かがわ市/香川)、「0°C」(2016年、blanClass、横浜市/神奈川)など。



出品予定作品:新作サウンドインスタレーション

**アンナ・ヴィット Anna WITT**

滞在期間:2017年1月14日(土)~3月19日(日)

1981年、ドイツ生まれ。現在はオーストリアのウィーンを拠点に活動。2008年にモニカ・ボンヴィチーニのもとでパフォーマンスを含むインスタレーション作品で修士号を取得。その後、マニフェスタ7(2008年、イタリア)、ベルリンビエンナーレ(2010年、ドイツ)、第29回グラフィック・アーツ・ビエンナーレ(2011年、スロベニア)、Lux/ICA 動画ビエンナーレ(2012年、イギリス)、ルール・トリエンナーレ(2013年、ドイツ)、オフ・ビエンナーレ・ブダペスト(2015年、ハンガリー)、ウィーン・ビエンナーレ(2015年、オーストリア)など数多くの国際的な展覧会に参加。ここ数年は Janco Dada Museum(イスラエル)、Marabouparken Art Gallery(スウェーデン)、Gallery Tanja Wagner(ドイツ)、Stacion-Center for Contemporary Art Prishtina(コソボ共和国)などで個展を開催。彼女の作品は、サンクト・ガレン美術館(スイス)やルートヴィヒ美術館(ドイツ)、ベルヴェデーレ宮殿(オーストリア)などでコレクションされている。2013年に40歳以下を対象としたオーストリアのアーティストに与えられる「BC21 Art Award」を受賞したほか、2015年に「The Future of Europe Art Prize」を受賞。2011年にベルリンの Revolver Publishing から彼女の作品集が出版されている。



**出品予定作品:《ケア》2017年、映像、17分28秒**

**ケレン・ベンベニスティ Keren BENBENISTY**

滞在期間:2017年6月4日(日)~7月28日(金)

1977年、イスラエル生まれ。現在はニューヨークを拠点に活動。2004年に、フランスのエコール・デ・ボザールを卒業。2009年スカウヒーガン絵画彫刻学校(アメリカ)、2011年インターナショナル・スタジオ & キュラトリアルプログラム(アメリカ)、2016年レジデンシー・アンリミテッド(アメリカ)などで滞在制作を行う。近年の主な展覧会に、「Unreliable Library」(2018年、プラハ現代美術財団、チェコ)、「Migration: Jaydia」(2017年、テアルビブ美術館、イスラエル)、「Apparatus for a Utopian Image」(2016年、エリザベス・ファウンデーション・フォー・アーツ、アメリカ)など。2018年-2020年に The Drawing Center(アメリカ)の「オープン・セッションズ」に参加。また、2018年から2019年にかけてイスラエルの美術館で2つの展覧会を予定している。



**出品予定作品:《ハーフ・ライフ》2018年、映像インスタレーション**

プレスリリース  
PRESS RELEASE  
2018/7/31

**衣 真一郎 KOROMO Shinichiro**

滞在期間:2017年8月29日(火)~10月1日(日)

1987年、群馬県渋川市生まれ。2013年東京造形大学絵画専攻卒業。2014-15年パリ国立高等美術学校に交換留学。2016年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。風景や静物、人、建物等の身近にあるものをモチーフに絵画と立体による作品を制作。主な個展に、「山と畑」(2018年、ya-gins、前橋/群馬)、「Town」(2016年、switch point、国分寺/東京)、「TWS-Emerging 214 風景と静物」(2014年、トーキョーワンダーサイト渋谷、渋谷/東京)。主なグループ展に、「BankART Bank U35 2017」(2017年、BankART Studio NYK、横浜/神奈川)、「群馬青年ビエンナーレ 2017」(2017年、群馬県立近代美術館、高崎/群馬)、「corner」(2016年、see saw gallery+café、名古屋/愛知)、「アートアワードトーキョー丸の内 2016」(2016年、丸ビル1階マルキューブ、丸の内/東京)、「Choque Parisien」(2015年、パリ国際大学都市日本館、パリ/フランス)など。

出品予定作品:《山と畑》2018年、油彩・カンヴァス、130.0×162.0cm など

アーツ前橋  
ARTS MAEBASHI



**イルワン・アーメット&ティタ・サリナ Irwan AHMETT & Tita SALINA**

滞在期間:2017年11月14日(火)~2018年2月3日(土)

ジャカルタ(インドネシア)を拠点に活動。ジャカルタ・インスティテュート・オブ・アートでグラフィックデザインを学び、アーメット・サリナ スタジオデザインを設立。2010年から公共空間における都市問題や社会的・政治的問題を創造的な資源としてアートプロジェクトを行う。これまでインドネシア、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ドイツ、日本(2014年、トーキョーワンダーサイト、東京)での滞在制作に参加。シンガポールビエンナーレ(2013年、シンガポール)、瀬戸内国際芸術祭(2013年、小豆島/香川)、アジア・アート・ビエンナーレ(2015年、国立台湾美術館、台中/台湾)、ジョグジャカルタ・ビエンナーレ(2015年、ジョグジャカルタ/インドネシア)などに参加。

出品予定作品:新作インスタレーション



## 滞在制作中のアーティスト

**羽山まり子 HAYAMA Mariko**

滞在期間:2018年9月8日(土)~11月7日(水) ※予定

2010年女子美術大学大学院修士課程修了。大学院時代にわたらせ渓谷鐵道沿線で行われている「WATARASE Art Project」に携わる。自分が関わった社会から集めたエレメントを「ラッピング」「刺繍」などの手法でつなぐインスタレーションを展開。「場と記憶をつなぐ『関係』の形象化」を試みている。主な個展に 2013年「羽山まり子展-マイホーム-」(2013年、LIXIL ギャラリー、京橋/東京)、「複合回路 vol4 羽山まり子展」(2010年、gallery αM、東神田/東京)など。2011年「川口の新鋭作家展」最優秀作家賞受賞。



## 参考図版



図 7



図 8



図 9



図 10

上左【図 7】アンナ・ヴィット《ケア》 2017 年、映像、21 分 16 秒

上右【図 8】萩原留美子《偽の風》 2016 年、サイトスペシフィックインスタレーション

MP3 プレーヤー、スピーカーからの風音と同調した動きをするモーター、透明な釣り糸、ランプ、木

下左【図 9】衣真一郎《横たわる風景》 2017 年、91.0×116.7cm

下右【図 10】ティタ・サリナ《1001 つ目の島- 群島の中の最も持続可能な島》 2015 年、映像

14 分 11 秒、撮影: Yopie Nugraha

## 記事掲載についてのお願い

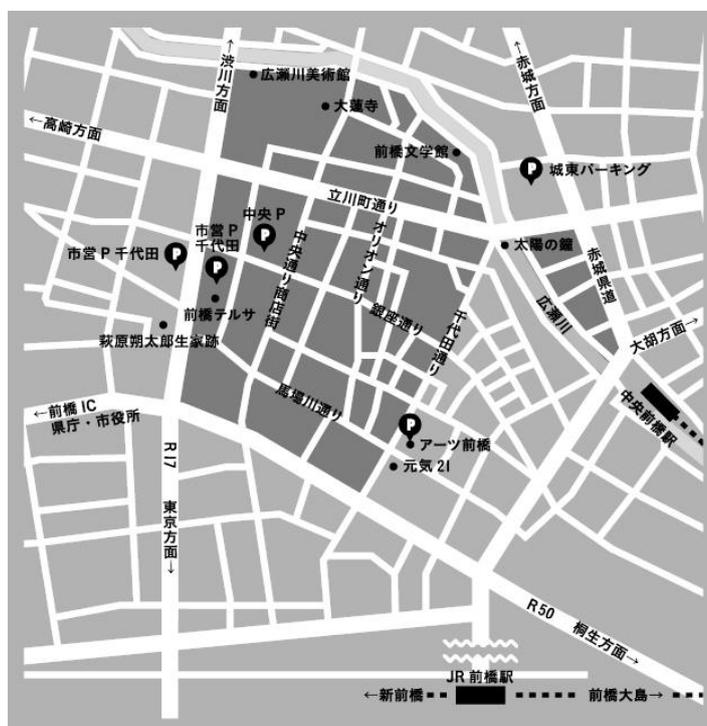
- ・掲載にあたっては、展覧会名称と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材、収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。

## お問い合わせ

アートによる文化交流推進実行委員会 事務局（アーツ前橋内）  
前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当：堺（広報担当）、五十嵐（学芸担当）  
〒371 - 0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16  
TEL：027-230-1144 FAX：027-232-2016 URL：http://www.artsmaebashi.jp/  
E-MAIL：artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

### 前橋中心市街地までの交通案内

- 公共交通機関  
JR 前橋駅から徒歩約 12 分  
上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 3 分
- 自動車  
関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分



※P マークの市営駐車場のご利用に関しては、アーツ前橋総合案内にて駐車券に割引処理いたします。

「アーツ前橋開館5周年記念 つまづく石の縁 - 地域に生まれるアートの現場 - 」広報用画像申込書

アートによる文化交流推進実行委員会 事務局（アーツ前橋内）

広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○を付けてください。画像（JPEG）をメールにてお送りいたします。

\*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供いたします。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご  
提供できません。

\*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
1	イルワン・アーメット&ティタ・サリナ オープンスタジオ風景 撮影：木暮伸也
2	片山真理 《25 days in tatsumachi studio / アツミレコード #001》2015、半光沢ラムダプリント、フレーム、H 221 mm × W 295 mm、©Mari Katayama Courtesy of rin art association
3	ヘヴン・ベク 制作風景 撮影：木暮伸也
4	木村崇人 制作風景 撮影：木暮伸也
5	ケレン・ベンベニスティ インタビュー風景
6	アンナ・ヴィット 映像撮影風景
7	アンナ・ヴィット 《ケア》2017年 映像 21分16秒
8	萩原留美子 《偽の風》2016年 サイトスペシフィックインスタレーション MP3 プレーヤー、スピーカーからの風音と同調した動きをするモーター、透明な釣り糸、ランプ、木
9	衣真一郎 《横たわる風景》2017年、91.0×116.7cm
10	ティタ・サリナ 《1001 つ目の島 - 群島の中の最も持続可能な島》2015年、映像 14分11秒、撮影：Yopie Nugraha

媒体情報 \*できるだけ詳しくご記入ください

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地： 〒	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	